

立川市 校務 DX 計画（案）

文部科学省では、令和5年3月に「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務 DX の方向性を示しました。ここでは今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウド活用を前提とした GIGA スクール環境の積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしています。

また、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」(令和5年8月中央教育審議会)においても、一人1台端末の積極的な活用や、汎用クラウドツールの転用による校務処理の負担軽減を図るとともに、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段を原則としてデジタル化するなどの取組を進める必要があるとされています。これらを踏まえ、校務 DX 計画として、以下を計画します。

1. クラウドサービスへの移行

校務系ネットワークと学習系ネットワークで取り扱っている教育情報を有効に連携させ、ストレスなく一元管理するとともに、令和8年度稼働の次期校務支援システムでは場所に依存しないクラウドサービスへ移行します。これにより、学校内のみならず、学校外での研修時や在宅勤務等必要に応じて、多様な働き方を実現することができます。

2. 教職員端末の1台化

クラウドベースの次世代型校務支援システムを導入し、ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じ、校務系と学習系のネットワークを統合します。これにより、教職員端末を1台に集約するとともに、場所に囚われない校務作業環境を整備することが可能となり、教員の働き方改革の実現に貢献します。

3. ペーパーレス化

会議等において、電子データを閲覧するほか、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を学校間で共有するなどのペーパーレス化の取組を進めてきました。今後は保護者連絡ツールなどの導入により教員から保護者への連絡や、児童・生徒への各種連絡のデジタル化、職員間の情報共有のデジタル化や研修資料のアーカイブ化により、更なるペーパーレスを推進するとともに、FAX・押印の原則廃止に取り組み、校務の効率化を推進します。